

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	多摩区第2グループ(錦ヶ丘・三田)	評価対象年度	平成27年度
事業者名	・事業者名 公益財団法人かわさき市民活動センター ・代表者名 理事長 小倉 敬子 ・住所 川崎市中原区新丸子東3丁目1100番地12	評価者	青少年支援室長
指定期間	平成23年4月1日～平成28年3月31日	所管課	子ども未来局青少年支援室

2. 事業実績

利用実績	H26		H27		H26		H27	
	1 錦ヶ丘子ども文化センター ①年間延べ利用者数	19,754人	19,299人	②年間延べ利用団体数	368団体	353団体		
2 南生田小学校わくわくプラザ ①登録者数	471人	453人	②年間延べ利用者数	21,864人	23,828人			
3 生田小学校わくわくプラザ ①登録者数	227人	231人	②年間延べ利用者数	12,619人	12,248人			
1 三田子ども文化センター ①年間延べ利用者数	47,207人	37,831人	②年間延べ利用団体数	465団体	490団体			
2 三田小学校わくわくプラザ ①登録者数	322人	315人	②年間延べ利用者数	16,356人	17,837人			

収支実績	単位:円	
	1 収入 指定管理料	97,855,138
	2 支出 人件費 管理費 事業費 その他経費 合計	78,893,822 6,844,336 4,381,221 3,132,076 93,251,455
	3 差引	4,603,683

サービス向上の取組	運営協議会、保護者懇談会、子ども運営会議、日常的な利用者とのコミュニケーション等により、利用者ニーズを把握し、活動や運営に反映。事業者のスケールメリットを活かした全館行事、区行事やグループ行事など地域を超えた児童の健全育成、交流の場づくりを実施。
-----------	---

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
事業の推進	事業推進 及び 事業成果	順調に事業の推進が図られているか	10	3	6
		事業計画に基づき、子ども文化センター事業とわくわくプラザ事業を着実に実施したか			
		子ども文化センターの利用者数に増加傾向が見られるか			
		わくわくプラザにおいて、適切に児童を受け入れているか			
(評価の理由) 仕様書・事業計画に基づき、子ども文化センター事業及びわくわくプラザ事業を運営しており、市内各区で複数館を運営する運営法人のスケールメリットを活かした全施設及び区内7館の合同事業を行うことで、子ども達が小学校の枠を超えて交流を深めている。年間を通して大きな事業には、運営協議会、利用団体、地域ボランティアなどの参加・協力が、地域の活動拠点、関係機関や市民活動団体を結び付ける場として機能しており、ボランティアなどの子どもに関わる人材は昨年度から倍増している。第2グループ合同事業では多摩区内の自然や特色を活かしたホテル観賞やデイキャンプを行い、子ども同士の交流を深めている。特に、かわさき宙と緑の科学館の協力により実施した「星空のギャラリー」(参加者93名)では、館が夜間の特別開館に協力することで、他グループからの参加も含め、参加者の大幅な増加につながった。錦ヶ丘子ども文化センターでは、地域との連携・協力のもと、子ども運営会議での提案を活かし、運営協議会と夏祭り(参加者241名)、ハロウィーン(参加者162名)、おもつき(参加者175名)などを共催するほか、子どもからの要望をもとに、人気のある「くいしんぼクラブ」を毎月開催するなど、子どものニーズを積極的に取り入れている。また、老人いこいの家、各わくわくプラザとの共催事業として、新たに交流会(参加者148名)に取り組みなど、世代を超えて交流を図っている。三田子ども文化センターでは、運営協議会との共催による夏祭り(参加者480名)のほか、近隣の明治、専修大学などの協力を得て、地域の安全マップ作り、科学実験教室、アカバコンサートなどに取り組みなど、大学や自治会等地域と一体化した事業に取り組んでいる。各わくわくプラザでは「銭太鼓チーム」や「みたっこダンス」の練習を重ね、全区合同事業のステージや、いこいの家との交流会で発表するなど、子どもたちの達成感を大切に事業に取り組んでいる。					
収支計画・実績	適切な金銭管理・会計手続 効率的・効果的な支出	適切な会計処理及び金銭管理をしているか	5	3	3
		計画に基づき適切な支出をしているか	5	3	3
		効率的な執行等、経費削減に具体的に取組んでいるか			
		サービスの水準を確保しているか			
(評価の理由) 会計処理・金銭処理については適正に行われている。受託20グループ53施設を管理している運営法人のスケールメリットを活かし、一元的な臨時職員の雇用・管理、警備等業務委託の一括契約、消耗品や備品の一括購入等による経費削減を図った。また、館内の節電やペーパーレス化にも取り組んでいる。					

サービス向上及び業務改善	施設・事業の広報	施設や事業の周知に積極的に取り組んでいるか	5	4	4
	利用者への対応	利用者に対するサービスが適切にされているか	5	4	4
		特別な配慮を要する利用者への対応が適切にされているか			
	運営協議会の実施	こども文化センター運営協議会を実施しているか	5	3	3
	保護者懇談会の実施	わくわくプラザ保護者懇談会を実施しているか	5	4	4
	学校及び行政機関との連携	事業実施に当たり学校、行政及び地域等と連携しているか	10	4	8
	利用者ニーズ	利用者ニーズを把握し、事業運営に反映させているか	10	4	8
<p>(評価の理由) 毎月のお便りやポスター、中学年向けの広報を関係機関に配布するほか、ホームページを作成し利用案内や施設ごとの事業・活動等の周知を図っている。また、多摩区では独自にQRコード入りリーフレットの製作、乳幼児向け便りを発行し、各館でも中学生向け便りを発行するなど、利用者増に取り組んでいる。こども文化センター・わくわくプラザともに原則、同一スタッフが一貫して子どもに対応することで、対応の継続性確保と信頼関係構築に取り組んでおり、特別な配慮を必要とする児童への対応については、学校やタイムケア事業者などの関係機関と連携し、児童一人一人の状況を把握し、職員間で共有のうえ、適切な対応を図っており、事業やクラブ活動に参加しやすい環境づくりにも努めている。また、利用者視点でサービスの向上を図るため、こども文化センターでは定期的に運営協議会、団体利用者会議、子ども運営会議等を開催する他、小学校、行政機関等の地域会議に積極的に参加し、利用者ニーズ把握に努めており、要望の高い校外活動の複数回実施や新しい事業の開催等、事業への反映に努め、子どもたちの満足感、事業参加者や地域ボランティアの増加につなげている。わくわくプラザにおいても、年3回の保護者懇談会、子ども運営会議、子どもの送迎時のコミュニケーションなどにより、ニーズの把握に努め、人気事業である昼食会の回数を増やすなど、事業への反映に努めている。また、学校の参観日と同日の保護者懇談会開催や開催前の親子事業の実施など、保護者の出席増加にも取り組み、三田小学校わくわくプラザの出席者は昨年度に比して3倍以上増えている。第2グループでは、運営協議会との共催事業を複数回実施(錦ヶ丘6回、三田4回)するほか、保育園、老人いこいの家、地域の大学等地域機関の協力により、様々な事業を実施し、地域交流・世代間交流を図っている。また、近隣の道路清掃や雪かきへの積極的な参加や、学校の職場体験学習の受け入れなどにより、地域との信頼関係構築に努めている。</p>					
組織管理体制	適正な人員配置	川崎市児童福祉施設の設備及び運営の基準に関する条例第54条の規定に従い職員を配置しているか	10	3	6
		こども文化センター及びわくわくプラザの施設管理と事業運営のために、指定管理仕様書において定める職員配置の最低基準どおりに人員を配置しているか			
		川崎市公契約条例を遵守しているか			
	職員の研修体制	職員のスキルアップに必要な研修を実施したか(外部研修の受講を含む)	10	4	8
個人情報等の取扱	個人情報保護に関する規定や体制を整備し、適正に取り組んでいるか	5	3	3	
<p>(評価の理由) 適正な人員配置については、こども文化センター及びわくわくプラザにおいて、適正に職員が配置され、利用児童数や特別な配慮を必要とする児童などの状況に応じて、適時、職員を加配しており、円滑な事業運営が行われた。研修体制については、法人全体の10年以上にわたる青少年分野における人材育成のノウハウを活かし、全市・グループ・館ごと、または、職位ごと、分野ごとの研修など、体系的・計画的な研修が行われていた。個人情報等の取扱については、個人情報保護マニュアル、取扱規定と管理体制が整備されており、個人情報の取扱いが適正に行われている。</p>					
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障を来すことのないよう、施設・設備の保守点検や整備、備品管理等を適切に実施しているか	5	3	3
		利用者の安全確保			
	利用者の安全確保	利用者の安全を確保する体制(マニュアル等)を整備しているか	5	3	3
		事故等が発生した場合に適切な対応をしているか			
	防犯対策及び災害時の対応	感染症予防対策や発生時において、適切な対応をしているか	5	3	3
		施設の防犯のための工夫をしているか			
災害発生時に備え、マニュアル等を整備しているか					
防犯対策及び災害時の対応	災害発生時に備え、マニュアル等を整備しているか	5	3	3	
	災害発生時に確実な対応・行動を取るための取組をしているか				
<p>(評価の理由) 施設・設備の保守点検や必要な修繕が実施されており、備品の管理も適切に行われている。経費削減による剰余金を児童用図書等の購入や施設の環境整備に充てることで、利用者還元している。日常的な安全点検や救命講習の受講など、安全・衛生管理に適切に取り組んでおり、清潔感あふれる施設を目指し、施設維持・管理を行っている。安全点検マニュアル及び衛生管理・交通安全マニュアルを整備し、安全管理・衛生管理に関する研修、事例検討会などを実施し、利用者への声掛け、見守りを適切に行い、安全確保に取り組んでいる。また、防犯・交通安全マップ作成や防災宿泊体験など、子どもたちの意識を高める事業を取り入れているほか、地域の安全会議、防犯活動に参加するなど、学校、警察等地域機関との連携を図っている。災害発生時に備え、対応マニュアルを整備し、消防用設備点検、消防・避難訓練を年2回実施するなど、災害時に備えている。</p>					

4. 総合評価

評価点合計	69	評価ランク	C
-------	----	-------	---

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

こども文化センター及びわくわくプラザの管理運営に長年に渡り携わってきた経験を活かし、安定した施設運営を行っており、利用者の安全や災害時の対応に配慮した備えを準備しつつ、適正に業務を遂行している。また、各館が培ってきた地域住民や関係機関との連携も非常に良好で、第2グループでは、地域との関わりを大切に事業運営を行っており、学校や地域の美化活動、清掃活動にも積極的に取り組み、地域との信頼関係を構築することで、良好な連携が図られており、今後も地域一体となった運営が期待できる。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

地域社会全体で子どもを見守り育てる、安全・安心な居場所となるよう、環境整備や職員のスキル向上に努め、職員と子どもが顔の見える関係を築き、中高生を含めた様々な年代の子どもたちにとって、居心地のよい場となるよう努めること。